

日時：8月9日（水）9：00～12：00

部会・・・提案授業の協議 授業者から

細野：【願い】 過去、そして現在と学校にかかわっている様々な「人」の思いや願いに気づかせたい。

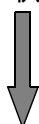
自分にとっての学校という存在を見つめ直し、さらに学校に愛着を深めるとともに学校生活を一層よりよくしていこうと前向きに考え、実践していく態度を育てたい。

【問題】 インタビューの仕方を練習して取り組んだものの相手が身内になると安易な受け答えで済ませてしまう。

資料を読み解く難しさがある。

【ゲストティチャー】

子供の意識の高まりとコーディネイトの仕方



心を揺り動かされるゲストティチャーの発掘

金田さん・・・奉仕活動を当たり前に行っている方

南さん・・・校章に込めた願いを語ってくださる方

ゲストティチャーの思いや願いにふれることによって今までの自分とちょっと変わった自分を見つめていく。（認識の変化）

【子供の気づき】

いろいろな人に支えられているんだ！



記念誌にまとめたい・みんなを元気にしたい・金田さんの素晴らしさをほかの人にも伝えたい・児童会の取り組みに積極的に参加したい・学校をきれいにしたい
B U T !! 願いや思いがふくらまず具体化の方法が思いつかない子供もいる。

【2学期の展望】

ゲストティチャーの投入（未定） ・地域から学校をみている方
・当時の6年生担任の先生の話

もう一度、単元名について話し合う

キーワード かがやく つなぐ

意図：調べたことをまとめたいという活動を展開するのではなく、自分の活動の意味を問い直すことを意識させる。

子供の意識を高める際のキーワードとしていく。

具体的な活動

イメージマップ作り

活動カレンダー作り（見通しをもった活動）

満足度カード

本時のもち方

取り組みの背景を語り合うことで自分の活動を見直す時間とする。

【悩み】 30人30通りの課題で追究をしている子供たちの共通土台を何にするのか。

（形に残るもの作り・美化奉仕活動・呼びかけ活動など追究課題のスタイルは十人十色である）

その支援の仕方（本時にむけて話し合いの必要感の高め方など）

質疑応答

深井：一人一課題のものをどう集約させるのか。先生自身、集約したいのか、必要があるのか。

細野：活動の集約はないが、思いは集約したい。

深井：30周年記念という学校行事を利用した発表は考えているのか。

細野：式典は6年生が中心なので、式典準備などで振り回されることはない。

取り組みに関しては、期間で区切りをつけていきたい。

三日市：30課題の想定について

細野：記念誌にまとめる・目先のものに飛びつくのではなく、人の思いにふれさせたい。

米田：お互いの活動を知り合う場の作り方について

掲示物を見るだけでは、友達のよさや工夫を学び合いにくいのではないか。

上野：活動の終点の違いへの支援を個々に合わせて考えて行かねばならないだろう。

ゲストティーチャーの導入後の子どもたちの思いや響き方を共通で話し合い理解し合うことでコーデネートした意図が明らかになる。

國香：テーマ性の延長の裏側に流れる育てたい力を考えていく。

部会・・・ワークショップ 10:15～11時45分 3グループ編成

ねらい：細野先生にとって、参考になるものを作り上げよう。

テーマ： 単元構想とつけたい力

「かがやく」「つなぐ」の意識の高め方

一人一人の取り組み（願い）への支援

概要： 単元構想とつけたい力

「かがやく」「つなぐ」で調べたことが位置付いていかない。その訳は、子供の調べ学習が共有化されていないからであろう。過去 現在 未来の自分へとステップアップさせるために、育てたい力を焦点化させたい。5年生は国語科でも「伝える力」が取り上げられてくるので、関連を図りながら伝える力を中心にまとめていくのも一方法である。集会活動を利用して「聞く力」を育て、ねらい達成の評価をしていくことも可能である。全校発信、地上デジタルの研究と絡めていく方法もおもしろい。

「かがやく」「つなぐ」の意識の高め方

- ・子供の調べ学習の共有化に時間を取る。
- ・導入時のキーワードの掲示（話し合ったこと）と1学期の取り組みを終えての今の思いを掲示し、比較することで今後の見通しにつながる。
- ・二次の学習課題は行動目標として表記する。
「わたしの30周年プロジェクト」とする。本時を提案資料の流し方を再考してみたい。例えば、「かがやく」につながっているか、本当に輝いている自分だろうか、などを話し合いの共通土台としていく。

一人一人の取り組み（願い）への支援

- 30人30通りの課題でもグルーピングが必要であろう。
= 目標達成への効率化 A
個々の課題を具体的に語れるようにしておく。ゴールも必ずイメージさせ（あ

いさつ運動の継続の終点は だ、こんな作り物が完成の形だなど)、語れるようにしておく。話し合いが大切である。

プロジェクト学習のグルーピングの仕方

A (おすすすめ) イメージマップからカテゴリーを提示して、子供の思いや願いを集約していく。

B (むずかしい) 活動レベルでグルーピングし、個へもどる。

- 掲示：一人一人の顔がはっきり分かる掲示の工夫
視覚に訴える・言葉の付加・自分に戻る(お助けコーナー)
- 話し合い：テーマに戻る話し合いを何回も積み重ねていく。朝の会なども利用しながら活動報告をし合い、自分の思いや友達の歩みを共通理解していく。
- カレンダー：子供と教師のカレンダーが必要
レベルの引き上げ目標

指導助言

【戸田教頭先生】

- ・ 教育資源を学校30周年というものからとりあげていくこの提案であるが、特徴をどう取り上げるのかは個々の教師の解釈の仕方で違ってくるので、導入前の教材研究が大切になってくる。他の教科で削減された時間が総合に充てられている現実、総合でつける力とその成果を明らかにしていかなばならない。発表を国語単元や地デジ関連で重点をおくと次への活動のエネルギーになる。
- ・ 「かがやく」「つなぐ」を子供のレベルに下ろして子供の様子の中からうまく取り上げていく。子供の出番を大切にし、そのタイミングをのがさない目をもつ。
- ・ 学習は、子供がみずからする部分、指導する部分を上手に兼ね合わせながら、どの子にもスポットが当たるようにしていく。
- ・ 次の活動に生きるテーマとの出合わせ方を工夫していく。

【大澤校長先生】

“本物は続けるから本物になる”

これが本指導案のキーワード「かがやき」への一姿となるであろう。

9月25日の授業役割分担

協議会記録	上谷(熊野)
全体記録 (教師の支援)	國香(光陽) 深井(熊野)
抽出児A B C D E	日高(鵜坂) 米田(長岡) 滝川(呉羽) 三日市(光陽) 川原(奥田北)
デジカメ	酒井(水橋東部)
ビデオ	笹原(寒江)